# 令和7年度　　園評価書

園番号　　17　園名　　静岡市立久能こども園

## Ⅰ　経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている　B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

| 1　教育・保育目標 | 2　重点目標 | 評価指標 | 園説明 | 自己評価 | 関係者評価 | 園関係者評価委員から | 改善策（来年度の具体的な取組目標等） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 心豊かに<br>たくましく | わくわくを見つけよう！楽しもう！ | 自分の好きな遊びを見つけて試したり、工夫したりして、夢中になって楽しんでいる | 子どもなりのイメージをもって遊びをつくっていく姿が見られている。保育者も子どもの姿を捉え、仲間になって一緒に楽しんだり遊びが広がるような援助をしたことで「〇〇しよう」などの言葉や発想につながってきている。 | A | A | ・土台の土が良いので根を張るのも早いというように子どもたちが成長している | 子どもの姿を共有し、一人一人が楽しんで挑戦したり、試したりできるような環境の見直し、声掛けのタイミングを意識し、どのように対応していくかまで共有していく。<br>子ども同士や周りの大人との関わりの中で、相手の気持ちに気づける援助をしていくことで、共感しあうこと、相手の気持ちを考えることの経験を重ねられるようにしていく。<br>遊びや生活の中で挑戦できる場や環境を工夫し、子ども自らが取り組むことで、できるようになった嬉しさや楽しさ、喜びを感じ、自信につなげられるようにしていく。 |
| | | 身近な人との関わりの中で、自分の思いを表現したり、相手の思いに触れたりしながら共に楽しみ、共感し合う体験を積んでいる | 安心して自分の思いを伝えようとする姿は見られるが、思いの違いを知る、折り合いをつける等の経験が十分ではなかった。生活の中で一緒に楽しむことや、自分の思いを相手に伝えたことや伝わったことでの嬉しい気持ちが育ってきた。 | A | A | | |
| | | 体を思い切り動かすことを喜び、楽しんだり挑戦したりする姿や自分の身の回りのことを自分で行おうとする姿がある | 鬼ごっこやサッカー、縄跳びなど、友達と一緒に体を動かして楽しむ姿がたくさん見られた。その中で、“もっと跳べるようになりたい”“回数を増やしたい”など、目標を掲げて挑戦しようとする姿が見られていた。 | A | A | | |

## Ⅱ　各領域に関わること

| 大項目 | | 評価指標 | 園説明 | 自己評価 | 関係者評価 | 園関係者評価委員から | 改善策（来年度の具体的な取組目標等） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1<br>こども園における教育及び保育 | (1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育 | 年間を通した異年齢児保育を行う中で、発達や経験の差を踏まえ、一人一人に応じた柔軟で応答的な援助が行われている | 子どもの姿や発達について話し合い、個々が楽しめるような援助を行っているが、異年齢の交わりを意識した活動や、次にどのような援助が必要かを具体的に考えていく部分で難しさを感じることもあった。 | B | A | ・10人いれば10人の思いがあり、個々に合った活動をすることは非常に難しい。先生方が頑張ってくれているのもわかるので、Aでよい | 個々の子どもの得意な所、難しい所はどこかを確認し、育ってほしい10の姿と照らして次のステップへの援助を具体的に捉え、異年齢児の関わりも意識しながら保育につなげていく。 |
| | (2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮 | 一人一人が安心、安定した気持ちで園生活を送れるよう、スキンシップや声掛け等のかかわりに努めている | 日々の関わりのなかで、一人一人が安心して過ごせるように、子どもたちの気持ちに寄り添ったあたたかい声掛けを大切にして保育を行ってきた。 | A | A | | 引き続き、子どもの姿を共有し、一人一人が安心して過ごせるよう、あたたかい声掛けを大切にし、個々に応じた配慮をしていく。 |
| | (3)環境を通して行う教育及び保育 | 地域の自然や人とのふれあい、久能山東照宮の文化等、久能ならではの経験を大切にし、遊びや生活に取り入れている | 栽培活動や久能山東照宮とつながる梅活動、文化財への興味などを遊びや生活に取り入れている。また、地域の自然物で製作を行うなど、海や山、地域の自然に触れる経験を通して地域ならではの学び、体験を大切にしてきた。 | A | A | | 栽培活動、海や山、東照宮などの自然や文化との関わり、地域の特色を生かした活動を継続し、子どもの興味や学びが深まるようにしていく。 |
| 2<br>安全管理・指導 | (1)事故防止・防災 | 減災教育の視点に立ち、より安全な避難の仕方が学べるよう訓練の内容を工夫し実践を積んでいる | 子ども自身が自分で考え、行動できるよう声掛けをしながら様々な状況を想定した訓練を行った。何が危険か、どのようなことが起こるかを予測し、より安全な避難の仕方について子どもたちが考えていけるような訓練内容を実施した。 | A | A | ・不審者対策に課題。園に門がない。昔は園に門があったがなくなったことと、女性の職員が多いので不審者への対応が心配。門とまではいかなくても何か対策がほしい | より安全な避難の仕方について話し合いを重ね、訓練内容、及び、ねらいを見直し、育ってほしい子どもの姿を意識して年間計画を立てて実施していく。 |
| 3<br>保健管理・指導 | (1)健康教育の充実 | 栽培からクッキングの体験、食育ボード等を通して、食や健康への関心が高まる取り組みをしている | 年間を通してなかよし農園での栽培からクッキングの活動、堆肥作りにつなげ、食の循環を体験しながら保育活動を展開できた。収穫野菜のクッキング、梅活動を通し、自ら作ったものを食べる嬉しさや一緒に楽しく食べる喜びに繋がった。 | A | A | | 栽培活動、クッキング、たい肥作りなどで収穫の喜び、一緒に食べること、育てることの嬉しい体験を通し、食への関心が持てるようにする。引き続き、目的を持って楽しめる活動を行っていく。 |
| 4<br>特別支援教育・保育 | (1)支援体制づくりの推進 | 外部研修での学びを園内研修などを通して全職員で共有し、職員各々の特別支援についての知識を高めている | 外部研修で得た学びを資料の回覧や口頭での報告により全職員で共有し、理解や知識を深めてきた。園で生かせるところのポイントをおさえて伝えることで、それらの学びを保育に生かすことができた。 | A | A | | 引き続き、職員間で情報共有をし、研修で得た知識を保育の中で活用したり、応用したりしていく。参加者は園で何が活用できるかの視点を持って参加する。 |
| 5<br>組織運営 | (1)組織体制の充実 | 分掌担当がリーダーシップを発揮し、互いが協力し合って、円滑な園運営に繋げている | 分掌担当が中心となり、声を出し合い、職員同士が互いに協力しあい取り組んできた。日々の打ち合わせの時間を大切にし、計画の進捗や実施確認を通し、職員同士の意識を高めあってきた。 | A | A | | 職員間で声を掛け合い、進捗を伝え合ったり、共有したりできるようにし、各自が自分事として捉え、協力しあって園運営につなげていく。 |
| 6<br>研　修 | (1)研修体制の充実 | 研修テーマ『「〇〇したい！」と思える人的･物的環境作り』として、日々の手立ての検証や公開保育、事前事後研修、評価を行っている | 公開保育、事前事後研修を通し、環境構成や関わりなど、人的、物的環境の見直しが行われた。また、日々の手立てについて、週案や月案検討にて振り返り、職員で話し合うことで、研修テーマに沿った話し合いを継続してきた。 | A | A | | 日々の手立ての検証やこれまでの実践評価を活かし研修の学びが日々の保育に定着するよう取り組んでいく。 |
| 7<br>教育・保育環境整備 | (1)教育・保育環境の充実 | 興味を持った遊びを十分に楽しむための素材や遊具の提供、教材研究が行われている | 子どもの姿や興味を話し合い、捉え直し、素材、用具の置き場や出し方について考え、環境を用意してきた。遊びの広がりや深まりにつながりにくい姿に対しては、援助の仕方についてさらに考えていけると良かった。 | B | A | ・ここも1-(1)と同様、一人一人に合った活動を求められているので、先生方が過小評価されていると思う | 子どもの遊びや発達の押さえを共有し、環境の見直しを行っていく。子どもが興味を持てる環境の設定、試したくなるにはどのようにすればよいか等、考えて働きかけ、関わり方の工夫をする。 |
| 8<br>家庭との連携・協力 | (1)家庭教育への支援機能の充実 | 食育、保健他の便りの発行や日々の活動、各種交流の様子などを知らせ、子どもの成長発達を共有している | コドモンにて日中の様子を伝える他に、いつもと違う姿や素敵だと感じた部分、成長を感じた所などは送迎の際に直接口頭で伝え、子どもの姿の伝え合いを大切にしてきた。また、面談を実施しさらに子どもの育ちの共有をしてきた。 | A | A | | 家庭との成長発達の共有を行っているが、子どもの姿からの対応や見守りの程度の共有も行えるよう話していくことで子どもの成長につなげていく。 |
| 9<br>近隣の学校との連携 | (1)近隣の園との連携の推進 | 久能小学校、大谷こども園との交流機会を多く持ち、子ども達が集団参加の経験をしたり、園児、児童、職員のつながりを深めたりしている | 久能小学校、大谷こども園と定期的に交流し、一緒に生活する中で、集団生活を学ぶ機会とすることが出来た。交流で意識したいことのねらいを持って援助していくことで、経験したことを子ども自身がやってみようとする姿につながった。 | A | A | | 近隣園・校の子どもたちとの定期的な交流を引き続き大切にし、子ども同士のやりとりを見守ったり、援助したりして、集団生活の楽しい経験となるように、関わりを深めていく。 |
| １０<br>地域との連携 | (1)信頼される園づくりの推進 | 園便りのお届けや、農園での栽培活動、東照宮との関わり、お年寄りとの交流等地域の自然や文化、人々と関っていくことを大切に継続している | 野菜作りやいちごくらぶとの交流、久能山をはじめとする地域の文化に触れる経験を大切にし、日々の遊びや生活に取り入れた。関わりを通して、親しみや安心感、感謝の気持ちを持って過ごす子どもの姿につなげることができた。 | A | A | | 地域の方々との関係を大切にしながら、継続的な関わりを持てるようにそれぞれが無理なく参加し、身近で親しみやすい交流となるようにする。 |